

令和元年度第1回門真市社会教育委員会議 会議録

会議名称	令和元年度第1回門真市社会教育委員会議
開催日時	令和元年7月31日(水) 午前10時から午前10時50分まで
開催場所	門真市役所別館3階 第3会議室
出席者 (6/8)人	(委員) 萩原委員・船越委員・木下委員・鈴木委員・白土委員・寺西委員 (事務局) 満永部長、西口管理監、中野次長、隈元課長、森井課長補佐、中谷課長補佐 藤井主任、岡係員、牧菌図書館長、清水図書館長代理
議 題	1. 生涯学習複合施設の在り方について 2. サウンディング型市場調査についてについて 3. その他について

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、令和元年度第1回社会教育委員会議を開会します。まず、初めに資料の確認をします。

(資料確認)

不足等がありましたら、お知らせください。

次に本日出席の委員をご紹介します。

(委員紹介)

なお、大森委員、古川委員は本日、ご欠席の連絡を受けております。

次に、事務局の出席者の紹介を行います。

(事務局紹介)

門真市社会教育委員会議運営要領に基づき、会議は公開するとしておりますが、不開示情報に該当する情報を審議する場合には、議長は会議に諮り、会議を公開しないことができることとなっていることを申し添えます。

それでは、以降の進行を議長にお願いします。

【萩原議長】

次第に従って、議事を進めますので、よろしくをお願いします。

案件1「生涯学習複合施設の在り方について」であります。事務局より、説明をお願いします。

【事務局】

生涯学習複合施設について、これまでの動きをおさらいしたいと思います。

昨年7月2日の第1回社会教育委員会議において、生涯学習複合施設建設基本計画概要と、総合

教育会議以降の経過から説明し、敷地内での施設配置イメージ図案や既存の市有施設との連携による機能分散について、ご意見を伺いました。その後、意見書として取りまとめたものを教育委員会7月の定例会へ提出しました。

7月の教育委員会定例会では、教育委員から社会教育委員会議や6月29日開催の公民館運営審議会での審議内容について、両会議に出席した萩原議長より説明を求めたいとの要望がありました。

8月の教育委員会定例会に萩原議長に出席していただき、そこでは「門真市生涯学習複合施設の既存の市有施設の活用等を踏まえた報告書について」が可決され、9月4日に教育長から市長へ報告書を提出されました。この報告書後半の「まとめ」箇所の一文には、今後の社会教育施設には幅広い役割が期待されていると記載しました。この社会教育施設の役割について、文部科学省中央教育審議会からの答申を受けたものとなっています。

別紙「資料1 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」をご覧ください。

この答申は、平成30年12月に出されたものであり、社会教育施設の役割等を含め、人口減少社会において、関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動の在り方を中心に、今後の社会教育の振興方策についての諮問を受けた答申となっています。

答申の第1部では、社会教育の意義・果たすべき役割について明確にしたうえで、新たな社会教育の方向性を示し、これらを踏まえた具体的な方策として、学びへの参加のきっかけづくりの推進、多様な主体との連携・協働の推進、多様な人材の幅広い活用等テーマ別に整理されています。

第2部では、今後の社会教育施設に求められる役割を施設種別ごとに整理し、公立社会教育施設の所管に関する考え方を取りまとめています。

別紙「資料2 答申抜粋」をご覧ください。

今後の社会教育施設の求められる役割として、公民館に関しては、住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割や、学習の成果を地域課題の解決のための実際の活動につなげていくための役割、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、地域の防災拠点としての役割、などを強化することが求められており、

また、図書館に関しては、人生を豊かにする読書や調査研究の機会を提供する役割を強化するとともに、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、学校との連携の強化や、商工労働部局や健康福祉部局等とも連携した個人のスキルアップや就業等の支援、地域課題の解決や地域の先駆的・主体的な取り組みの支援に資するレファレンス機能の充実など、地域住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割の強化が求められる。さらには、まちづくりの中核となる地域住民の交流の拠点としての機能の強化等も期待される。」

との記載があります。

この答申を受けて、令和元年5月に成立した「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」、いわゆる第9次地方分権一括法が同年6月に公布・施行されて、図書館、公民館を含む社会教育施設について地方公共団体の判断により、首長部局へ移管することが可能となりました。

生涯学習複合施設の整備に向けた庁内の検討内容についてご説明します。

別紙「資料3 門真市旧第一中学校跡地整備活用方法検討プロジェクトチーム 経過報告②」の1ページ目をご覧ください。

本市においても、旧第一中学校跡地における一体的なまちづくりを進めており、旧第一中学校跡地の市有地を生涯学習複合施設や、交流広場、高層共同住宅・商業・サービス等ゾーン（以下、商業ゾーンという。）として、民間活力の活用によって一体的な整備を行います。

庁内で検討を進めるにあたり、10月から教育部のほか、まちづくり部、企画財政部、総務部の関係課から構成されるプロジェクトチームを設置しました。また、平成31年3月からは整備事業手法や運営手法を検討するため、コンサルタント会社にその活用方法検討調査業務を委託しています。

これまでに、プロジェクトチームの会議を14回開催して、検討する課題の整理や、各課からの情報を共有するとともに、7か所の視察ヒアリングを行いました。プロジェクトチームの第10回目以降は、門真市の顔となる施設とするため、複合施設を含むこのまちのターゲットとコンセプトを検討し、複合施設に限らず、交流広場、商業・サービス等ゾーンにおいて提供するサービス内容も併せて検討しているところです。

2ページ目の右側をご覧ください。整備に向けたスケジュールに関しては、まちのコンセプトとターゲットを検討し、民間事業者の事業範囲と、施設を管理運営する仕組みを検討して、事業手法と運営手法の方針を確定していきます。

次に、その方針をもとに、民間事業者に事業参画の意向の有無や事業化に向けた問題点の整理をするため、事業概要書を作成し、民間事業者に事業概要書の妥当性について聞き取りを行うサウンディング型市場調査を行います。

次に、サウンディング調査の結果を受けて、本市にとって最適な事業手法の確定を行い、これらの用地を一体的に整備する事業者の選定を行っていくスケジュールとなっています。

別紙、「資料4 門真市旧第一中学校跡地整備活用方法検討に向けたまちのコンセプトとターゲット」をご覧ください。

プロジェクトチームで検討したまちのターゲットとコンセプトについて、本日は皆さんからご意見をお伺いしたいと考えております。

3. まちのコンセプトとしては、学びを通じ 新たな出会いが生まれる コミュニティガーデン 生涯学習複合施設と交流広場とその周辺がまちの核となっており、多様な学びを通じて人と人とが出会い、新たなにぎわいが生まれる“地域のたまり場”をめざす。また、いつでも子どもたちの声が響きわたり、子どもたちが「遊びと学び」を通じて、自分の将来への夢を抱き、地域への愛着を育み、新たなまちの担い手として育てているまちをめざす。と考えました。

4. まちのターゲットとしては、まちのにぎわいを生み出すには、子どもたちが走り回っているようなまちとすることが重要である。子どもがいれば、子どもを通じて、その家族だけでなく、幅広い世代の人や通りがかりの人ともコミュニケーションが生まれる。そのため、子育てファミリー層（子ども、子育て世代、子育て前世代）をターゲットとしたまちづくりを進める。と考えました。

そこで、本日の案件1としては、このまちのターゲットとコンセプトについて、皆さんのご意見を

お伺いしたいと思います。

【萩原議長】

ただいま事務局から資料1から資料4まで説明いただきましたように、案件1は特に資料4にあります、まちのターゲットとコンセプトのところ、ここを中心にご意見いただきたいということです。では、自由にみなさまからご意見頂戴したいと思いますのでよろしく願いいたします。

【鈴木委員】

2番のところですけれども、他のまちとの違いを明確にしたまち。「らしさ」や「違い」を作っていくということにはすごく賛成です。そういったエッジの効かせたようなまちづくりをしていけばいいかなと思っていますけれども。具体的にコンセプトやターゲットを置かれる際に、らしさとか違いというものをどのように考えているかももう少し聞きたいと思いましたがいかがでしょうか。

【事務局】

他市との違いといいますと、門真市の魅力を発表することはあるんですが、他市との違いを明らかにするというイメージで考えております。「らしさ」として、特にこれと今浮かんではいませんが、市の持っているポテンシャルといいますか、際立ったコンテンツを主に推していきたくというふうを考えておまして、そのためのストーリーを展開し、また、歴史といいますと門真市には史跡がいろいろありますので、それらをアピールしていきたいと考えております。

【鈴木委員】

具体的には特に決まっていない、これからつめていくということですか。
門真市とは、という部分になってきますので。

【事務局】

はい。今後つめていく予定です。

【萩原議長】

ほかございませんか。

【寺西委員】

資料2のところ、公民館であっても図書館であっても、社会に開かれた教育課程というのが、いま学習指導要領の変わり目でどこの文章を見てもよく見かけるんですけれども。

いま、道徳教育にしても不登校の問題にしても、いろんな部分で大人とのつながりが、子どもが社会や昔あったおじいちゃんやおばあちゃんとの地域とのつながりが薄くなっているという部分が非常に大きな原因だと言われているんですけれども。「地域のたまり場」のようなものをめざすこ

こにも書かれていますが、具体的にどうしていくのかなど。

学校教育と社会教育が両輪でと言われている中で、こういうことを言っただけなのは、学校教育としても非常に有難いことですが、具体的にどうしていくというのが難しいのかなど。そのあたりどのようにお考えですか。

【事務局】

学校との連携強化というところで、学校の建物内だけに限らず、外の施設に出て行っていただいて、いろんな人との交流、世代を超えた地域との交流を深めていく施設として、子どもたちが遊びと学びを通じて、将来に夢を抱けるような場となればと考えています。

【事務局】

補足させていただきます。今回サウンディングするにあたって、まちのコンセプト・ターゲットを市で一定決めさせていただいたんですけども。1カ月後の8月末から実際にはサウンディング調査していく中で、あと1カ月、市の方でもどういう形でサウンディング調査をしていくかということを検討する予定です。そこで、具体的な、今、ご意見いただいたことを踏まえて検討していくという形ですので、今回はいろいろなご意見をいただければというふうに思っております。

【萩原議長】

こういうイメージとかこういうコンセプトでやった方がいいのではないかと、具体的な意見を頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。

【木下委員】

私はサウンディングのことを存じ上げなかったので、サウンディング型市場調査はどういうものなのかいろいろ調べてみまして、大阪府の様々な施設でもこれを行うことが一般的になっていることですか、あるいは公共図書館でも、静岡県とかいろんな例が出ていまして、サウンディング調査を行うにあたって、かなり具体的にその図書館のコンセプトなりを民間事業者に示したうえでという調査だと思いますので。

確認ですが、いまのこの段階でということではなくて、これをもっと詳しく、具体的にされてサウンディング調査を行うということによろしいでしょうか。

【事務局】

具体的と言いますか方針ですのでまだ確定ではありません。あくまでの方針として事業者に投げかけるということを考えております。

【萩原議長】

ほかいかがでしょうか。

【白土委員】

資料4のところで、子どもたちが走り回っているようなまちにすることが重要であると書かれていますが、これは本当にそうなってほしいなと思います。

私は五中地域会議でいろいろやるんですけども、三つの小学校区の中で子どもたちがどれだけイベントなどで移動するか。やはり、一つの校区を出てはいけないという昔からの縛りといいますか、暗黙の了解といいますか。必ず付け加えるのは保護者同伴で来てくださいということです。

私は北巢本小学校区に住んでおりますが、いつも大きなイベントは弁天池公園でやります。そこでやるたびに、子どもたちに呼びかけるのは難しいです。と言いますのも、163号線、第二京阪道路を渡っておいでということはなかなか言えないんです。これは古川橋の北側ということで、子どもたちが走り回るような町にするということですが、子どもたちが少なくなっているということはありませんけれども、少なくとも寄って来るような関係づくりといいますか、どのようにするのか。目玉があれば子どもたちはやってきますけれども、その時にいままでの子どもたちを校区外にださないという。今は立場が変わっておりますので、どんどんおいでよと思いますが、学校の中におりますと、事故のことなどを考えたりするので、これに向けていろんな分野で十分に議論する必要があるなと思います。

サウンディング型市場調査とは離れた話になりますが、学校関係者とも密に相談しながら、子どもたちが安心・安全にこの施設に行けるという体制を考える必要があるのかなということで、これは本当に実現していただきたいなと思います。

【萩原議長】

船越委員いかかがでしょうか。

【船越委員】

ここに書いてあるまちのイメージですね。他の市町村の人からも魅力的に映るまちということで、素晴らしいことだと思いますが、でもこれはすごいテーマ掲げられたなど。

何をもちて魅力的と捉えるか。さきほど歴史という話もでしたが、周辺の地域にはなくて門真市にはあるものを具体的にどんどん挙げていっていただければいいかなというふうに思います。

【木下委員】

よろしいでしょうか。

【萩原議長】

どうぞ。

【木下委員】

子どもたちによく利用される施設ということはもちろん必要なコンセプトですので、入れていただくということは欠かせないことだと思うんですけども、複合施設ということで、生涯学習の場の文化会館ですとか、そういった学びの場も加わるわけですから、生涯学習の理念というところでは、高年齢社会というのは確定ですので、全世代型のようなコンセプトをもう少し入れたほうがいいのではないかと感じました。

そのあたりは高年齢社会という意味での、地域のたまり場という文章ももう少し入れていただく方がいいのではないかと思います。

【事務局】

プロジェクトチームでも、高齢者のたまり場としての意見もたくさん出ました。ただ、今回はサウンディングするにあたってのコンセプトとターゲットということで、あまり範囲を広げすぎると民間企業の提案を受けにくいとコンサルタント会社からのアドバイスをいただきましたので、第一次のターゲットとしては、子育てファミリー層という形にして、その補足の説明として、幅広い世代のコミュニケーションが生まれるという形になっております。

【萩原議長】

ちらっと幅広い世代というのは出てきている、通りがかりの人とコミュニケーションが生まれる、このあたりに匂わせているということですね。ほかいかがでしょうか。

では、今日はサウンディング調査の話も次にありますので、またそこでも戻ってご意見いただければと思うんですけども。

ひとまず、いただいたご意見をまとめさせていただきますと、基本的には、まちのコンセプトとまちのターゲットについては大きな異論はなかったかなと。ただ、いくつかご意見あった中で、多世代の交流や寺西委員がおっしゃったように、大人との交流が不足していて、子どもたちの育ちや学びを社会的に広げるという意味で、いろんな人との交流を可能にするということは大事な視点だと思いますので、そのあたりはサウンディングのときにでも補足説明していただければと思います。

それから私個人の意見としては、まちのストーリーのところは非常に具体的なんですよ。やはりこれまでの遺産とか歴史とか課題を踏まえているので。ただ、資料の右側にいけばいくほど一般的といいますか、だれもが異論は唱えられないと思いますが、具体的なイメージが非常に湧きにくい。私は今の門真の持っている強みとか弱みみたいなものをもう少し踏まえて、右側の具体的なものをサウンディングのときにやられた方がいいのではないかと思います。

まちづくりのいろいろな事例を見ていると、うまく機能しているまちというのは、それまでの遺産と言うんですかね。流行りの言葉で言うとレガシーと言うのかもしれないけれども、そういうものを上手く活かしたうえで新しいものを入れてくるということをしないと、かけ離れたものはなかなかつながりにくいので、左側から右側へ行くときのもう少し具体的な視点を深められるといいのかなと。それぞれ各部署から出られてプロジェクトチームを立ち上げておられるので、実際どうということが門真として可能なのか。他の地域との差別化といったときに、どういったものが実際

にコンテンツとしてあるのかということは、もう少し考えていくのをサウンディングと平行してやられるといいんではないかと思えます。案件1は以上とさせていただきます、案件2「サウンディング型市場調査について」に移りたいと思えます。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料5「サウンディング型市場調査」をご覧ください。

サウンディング型市場調査とは、民間事業者に対して、本事業への参画の可能性を調査するものです。民間事業者の本事業への参画の意向を調査し、民間活力の導入による円滑な事業化に向けた条件、要望、提案などを聞くことになっています。

ヒアリング結果をもとに、事業概要書の内容に対する課題とその解決策の検討を行い、今後の事業手法の検討に役立てます。進め方については、資料のフロー図に沿った内容となります。

事業概要書の作成においては、事業期間や、基本的な官民の役割分担やリスク分担を示し、市が財政負担をする範囲を示したうえで、参画への関心と課題、本市への希望条件などを聞き出します。ヒアリングを行う事業者との調整を行い、事業概要書の妥当性に関する質疑応答を行います。

先ほど、説明した中央教育審議会の答申において、今後の社会教育施設に求められる役割においては、「近年においては、施設の管理に関して、施設の設置の目的を効果的に達成するための措置として、指定管理者制度が導入され、株式会社など民間事業者に管理を行わせることができることになっており、各地方公共団体においてはこうした制度なども活用した柔軟な取組も行われるようになってきている。」との意見もあります。

門真市生涯学習複合施設建設基本計画でも、4-1. 管理運営体制の検討 (2) 民間資源の活用の項目において「本施設の管理運営にあたっては、施設の設置目的を効果的・効率的に達成するため、民間企業のノウハウなどの資源を活用することも視野に入れた検討を行う。」としており、事業概要書の業務範囲について、民間の持つ柔軟な提案、直営、民間を問わずに広く意見を求めていくこととしております。

管理運営体制の参考資料として、別紙 参考資料1「駅前複合施設の管理形態」をご覧ください。

過去10年の範囲で、市で検討しているような駅前に位置して、図書館を含む複合施設を建設するという類似した事例をインターネットで抽出したものを示した一覧表であります。

そこで、本日の案件2としては、この資料を参考にサウンディング型市場調査について、皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

【萩原議長】

はい、ありがとうございました。

では、案件2につきまして皆様のご意見をお伺いできればと思えますがいかがでしょうか・先ほどの案件とも関連してきますので、複合して言っていただいてもかまわないと思えます。

【鈴木委員】

私はこのサウンディング調査は賛成といいますか、いい手法だと感じているんです。というのは、一般の企業の考え方とか、門真以外のところで活躍されている方の意見とか提案が直接もらえるので良いと思うんですけれども。

先ほどの話に戻りますが、これいろんなことを言われると思うんです。予算も含めて、いいことばかり言われると思うんです。なので、オーダーする側がぶれてはいけないとっていて、そのぶれない軸をどこに置いておくんだというのが、先ほど私が気になっていた門真市とは何かということに門真の人がぶれたらダメだなとっていて、その軸をもう少し持つておく方がいいかなと思っています。

ターゲットが子育てでいいのかなと私は思うんですけれども、私が小学校に居て感じるのは、先ほど寺西委員もおっしゃっていましたが、いわゆる、地域のおじいちゃんおばあちゃん世代と保護者の世代が大きく分かれているんです。そのちょうど中間の世代がいなくて、その引継ぎがないので地域もうまく活用していけない、昔のイメージの循環ができていない感じがします。そこに地域のたまり場といいますか、上の世代と保護者の世代が上手く交わることを狙いとしているのであれば、子育てファミリーと言ってしまうと少し保護者主体のようなイメージがしてて。

例えばそういうところをサウンディングでつっこまれると思うんです。そこで、こちらがどういようなまちが作りたいたいんだということを言えないといけないのではないかとっているんです。ただこれからもう少し練っていくということなのでそれはいいと思いますが。そういった意味でもサウンディングというやり方はいいと思います。

【萩原議長】

中間層がないというのはすごく大事な話だとおもうんですけれども。逆に言うとその中間層が生まれてくるようなたまり場ですよ。高齢の方とファミリー層が出会って、お互いつないでいくような活動がここから生まれてくるみたいな仕掛けがあると、すごく門真らしいなと思います。

門真がいま持つておられる、高度経済成長期に企業文化で育てられた年齢の高い層と新しく入って来られるファミリー層とうまくここでつなげるものできてきたら、そして門真のこれまで暮らしてこられた方の知恵とかを今の子育て世代の方が上手く受け継いでいくことができれば素晴らしいことだと思うんですけれども。何かそういった仕掛けがあるとか、そこにターゲットを絞りこんで、“交流をやるんだ”みたいな。そういったものが、先ほどからのご意見で共通していたと思うんですけれども。

やはり子育て世代とファミリー層という耳ざわりがいいので。ただ、いままでのまちづくりもそうですよね。ニュータウンをつくる時に、30代、40代の人をターゲットにして、その層を呼び込んで。ある意味では今までも考えられてきた手法で、また門真の中心地に同じようなコンセプトでそれをつくるのが、今意味があるのか。それを呼び込むのと同時に今まで門真に暮らしてきた方もここに集ってきて何かが起こる。そういうような仕掛けをするとか。ちょっとまだそこまで議論は煮詰まっていないということですね。

【木下委員】

図書館関係のことで、参考資料で駅前にある複合施設の例を挙げていただいております。

私もいろいろなところを見学したことがあって、それぞれで素晴らしいと思いますが。

先ほどの、人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策についてのところで、民間の活用ということが書かれておりますが、この参考資料には指定管理者制度を導入されたところがたくさんあるんですけども、すべてを否定するわけではないんです。

例えば昨日の朝日新聞の社説で、公立図書館開かれた知の宝庫にということで、いまの公共図書館に何が求められているかということ、論説員の方がすごく的確に書いておられた記事がありまして、そこにも二つ例が挙がっていたんですね。その一例に神奈川県大和市の指定管理の図書館のことも挙げられていたので、指定管理の図書館がすべてよくないとかそういった意味ではないんですけども。

図書館の分野におりまして、指定管理者制度のことをどう捉えるのかということ客観的にこの数年見てまいりまして、2015年に総務省が図書館だけではなくて、地方行政サービス改革の取組状況等に関する調査ということで、いろんな公共施設の指定管理の運営状況を調べてまとめて、ホームページで公開されておりますが、圧倒的に図書館は低いんですね。比率が。その2015年の時点で15.2パーセント。日本図書館協会が毎年調査していますが、まったく導入が進んでいないということではなくて、たしかに導入は進んでいるんですけども、図書館協会の見解としてもすぐわないということですね。それと、いったん指定管理者制度を導入して、直営に変更にした館が16館あるんですね。今年の2月の調査ですけども。そういったことも考えて、複合施設だから民間活用ということではなくて、指定管理を導入したときのいろいろな変更、戻した館長さんの書いておられるものを読みましたら、直営でなくなることによって、市の政策立案に図書館員が参画できないということによる弊害ですね。他部署との連携とか、そういった政策立案から切り離されてしまうところは大変問題かと思っておりますので、せっかくのまちづくり、地域のたまり場という新しい施設ですので、そのあたりは慎重にご検討いただきたいと改めてお願いいたします。

【萩原議長】

サウンディング調査されるときに、前の図面を思い出しながら話しているんですけども、結構大きなスペースで住宅がありましたよね。そしてこの複合施設があって、広場があるといった感じでしたよね。一体的に開発される業者だけではなくて、部分参画される業者さんも含めてサウンディングされるということによろしいですか。

【事務局】

事業形態に応じた、業種の方々に聞いていくという形で考えております。それと併せて、公募という形で対象を選びます。

【萩原議長】

だとすると、全部一括で、住居部分も含めて一体型でやるという業者さんがでてくる可能性もあるということですか。

【事務局】

はい。

【萩原議長】

場合によっては、例えば図書館部分だけを別のサウンディングで、この参考資料にでているようなところにもサウンディングされるということによろしいですか。

【事務局】

はい。

【萩原議長】

そこで木下委員がおっしゃったように、ここにでてきているような業者の方にもサウンディングされるので、参画の意向があって、一体型に開発するというデベロッパー的なところからのサウンディングもあって、市としてこれが一番適切だということで次は公募をかけられるということです。そこでまた、図書館部分をどうするのかということは改めて議論になるとは思いますが、今のご意見では、図書館部分は直営という以前の計画を堅持するべきだというご意見ですね。

【木下委員】

はい。そうです。

【萩原議長】

はい、わかりました。ほかいかがでしょうか。

【木下委員】

サウンディングについて、民間のテナントさんもたくさん入ると思いますが、イメージとしては、岩手県の紫波町のオガール広場のような形で、個別のいろいろな民間事業者さんにもサウンディング型市場調査をなさる、そんなイメージなんですか。

【事務局】

複合施設だけに限りませんので全体を踏まえた業者を選んでいくことになります。

【萩原議長】

ほかいかがでしょうか。

【鈴木委員】

先ほどのサウンディングをされる企業の対象として、いわゆるソフトのことを提案してくれる方も入っているんですか。

【事務局】

施設整備という建設部分はもちろんですが、その維持管理ということで一つのところで対応できる、運営も含めて、企業に対して、これまでコンサルタント会社のいくつか事例を紹介していますので、そういったところからも参考に対象に加えていきたいと考えております。

【鈴木委員】

管理という面もそうですし、もう少し言うと料理教室のようなことを提案していくのか。

【事務局】

業務の形態は、こちらが提示した内容の業界に聞いていくということになります。

【鈴木委員】

ハードというのはつくってしまえば終わり、まねされてしまうようなことですが、ソフトが結構大事だと思っていて、そこの提案が大事だと思っています。

【萩原議長】

社会教育委員会議としては、サウンディングをされて、例えば住居部分についてあまり意見は言わないといえますか、そこと図書館部分の連携の在り方とか、前この会議でもお話が出たかと思いますが、民間の書店、あるいはカフェが入ったとして、そこと複合施設とが上手く連携やコラボレーションできるような提案、以前ご意見いただいたかと思いますがそういったところは言えると思うんですけども。あとは、複合施設部分と交流部分についての意見具申というスタンスになっていきますかね。だんだん。住居に関してはあまり我々としてはとくに言うことがなくなってくるので。そのあたりはどうですか。

【事務局】

いまおっしゃられたように、意見書で、隣接する商業ゾーンに文化の薫るテナントやカフェを戦略的に誘導し、図書館との交流を進めていくことにより、ゾーンそのものが複合的に商業施設も含めた文化施設になるのではないかとのご意見いただいております、まさにそのとおりだと思っております。まちのコンセプトは複合施設だけにとらわれず全体的に広がっていけばいいと思っております。

【萩原議長】

積極的にご意見いただければと思いますが、ほかいかがでしょうか。

【萩原議長】

資料5の進め方になりますけれども、いまヒアリング対象の抽出をされて、サウンディングされたあと結果をとりまとめて、最終的には事業手法に反映されるということでしょうか。

例えば、一体型開発の業者を公募するのか、分けてやられるのか、そのあたり含めて検討ということでしょうか。

【事務局】

事業スキームといいますか、事業手法を固めていくんですけれども、どういったものになるのかはサウンディングをしてみないと分からないところではあります。

【萩原議長】

どこまで市が財政負担するのか、建物のある部分をやるのか、それも含めて全部お任せするのかということは。

【事務局】

事業概要書である程度お示しして、そこで参画の可能性を見ていき、必要があれば方向性を変えていくということになるかもしれません。

【萩原議長】

ということは、サウンディング前にある程度のものは固めたうえでということですね。

【事務局】

はい。それが方針ということになります。

【木下委員】

サウンディングというのはあくまでも市場調査であって、事業受託のプロポーザルではない、その前の段階ですよ。ですから、サウンディング型市場調査の結果を踏まえて、市のほうで計画を立てて、それから事業者の公募をということですね。

【事務局】

はい。資料3に記載がありますが、サウンディング調査後に事業手法の確定、それから事業者の募集ということになってきますので、その後事業者を選定していくスケジュールになります。

【萩原議長】

だいたい来年の4月ですよ。次の年度くらいから事業者の募集にかかっていくということです。ほかいかがでしょうか。ご意見がありましたらお願いいたします。では、ご意見ないようでしたら案件3その他に移りたいと思います。

【事務局】

今回、その他としては特にありませんが、次回の社会教育委員会議の報告をいたします。

具体の時期は未定でございますが、次回の社会教育委員会議はサウンディング調査終了後に開催を予定しております。内容としましては、サウンディング調査の結果などの進捗状況をご報告したいと考えております。

【萩原議長】

だいたい秋ごろでしょうか。10月か11月。

【事務局】

予定では、11月ごろです。

【萩原議長】

次はサウンディングの結果をお聞きできるということです。

【木下委員】

こういった企業に対して、調査なるのかという情報はホームページで公開されるのでしょうか。

【事務局】

業種については公開できるのですが、具体的な企業名は伏せさせていただいております。と言いますのも、やはり業者の持っているノウハウですので、それを出してしまうと業者のほうもなかなか参画していただけないというように聞いております。

【木下委員】

では、プロセスだけ公開ということですか。

【事務局】

はい。

【萩原議長】

ほかにご意見ございますか。では、予定してございました案件はすべて終了いたしましたので、これもちまして、令和元年度 第1回社会教育委員会議を閉会いたします。